

〔翻 訳〕

『スペクテイター』(33)

——第313号から第320号——

門 田 俊 夫

第313号 1712年2月28日(木曜日)

【バジエル】

こうして少年に思いやりのある作法を身に付けさせ、
従順な赤ん坊のように巧みに働かせるのです。(ユヴェナリス)¹⁾

つぎの手紙は、先週木曜日の手紙の書き手と同一人物とだけお伝えして何の前置きもせずにその手紙を紹介したいと思います。

拝啓

お約束どおり、子供の教育についてももう少し突っ込んだ考えをお伝えします。ここで小生は「教育を委ねるのに好ましいのは、公教育か個人教育か」というあの名高い問題について考察したいと考えます。

この問題については、昔から最も卓越した人たちの間でも意見を異にしてきましたので、小生としては、小生の考える双方の長所について簡潔に説明するに留め、あとは各人で判断して頂きたいと考えています。

スエトニウスによると、ローマ人は子供の教育はもっぱら両親に委ねられていることだと考えていたことは確かです。そして、プルタルコスは、「マルクス・カトー伝」の中で、息子が勉強の出来る年齢に達するや否や、カトーには優秀な文法学者で多くの子供を教えたキロという使用人がいたのですが、息子を教えるのは自分しかいないと言ったと伝えています²⁾。

一方、ギリシア人は公教育や寄宿学校に関心を寄せたようです。

そもそも、個人教育は美德や正しい作法を請け合い、公教育は男らしい自信と世渡りの初歩的な知識を請け合います。

ロック氏は、名高い「教育論」の中で、双方に危惧すべき厄介な点があると認めています。彼はこう言っています³⁾。「もし子供を家に置いておくと、未熟な支配者になる危険性

1) ユヴェナリス『諷刺』7.237-8

2) 『マルクス・カトー伝』(大カトー) 20.3

3) ジョン・ロック『教育論』(1705年第5版) 93, 103-4 頁。

があり、家から出ると、どうしても世間に流布している不作法と悪徳の影響を受けてしまいます。家において置くと、無垢ですが、世間については無知になり、家を出た場合に引っ込み思案になります。」しかしながら、この学識ある著者が断言しているように、美德を身につけるのは世間知を身につけるよりも難しいことです。また、悪徳は内気さよりも危険であるだけでなく、手に負えないものです。要するに、ロック氏は個人教育を支持しているわけです。同時に彼は、子供は正しく管理すれば、父親の家においても男らしい自信を身につけることは可能だと考えます。このため、ロック氏は両親に、息子を家に訪ねて来る見知らぬ人に会わせ、両親が近隣の家を訪ねる場合には連れて行き、有能で行儀作法をわきまえた人たちとの会話に加わらせなさいと助言します。

以上の方法には異議が出るかもしれません。つまり、必要なのは会話だけでなく、会話がある程度年齢と資質が似通った者との会話でなければ、張り合う気持、競争心、そして活発な情熱を注ぎ込む気持などが入り込む余地はなく、こういった気持に動かされないと、恐らく鈍感になり、感受性が欠如してしまうのではないかという異議が出る可能性があるのです。

わが国が生み出したある偉大な著者が、かつて、組織を結成し、大学で人気者となる少年は、議会や枢密院でも同じ役割を演じることになるのだと語っています。世知に長けたオズボーン氏は、果樹園から盗む計画を用意周到に立てることは、気づかいうちに警戒心、秘密を守ること、さらには用心深さを身に付けさせることになり、より重要な事柄に耐えうるようにさせるのだと断言します⁴⁾。

要するに、徳高い人物を作り上げるには個人教育が最適であり、事業家を作るには公教育が最適と言えます。個人教育はプラトンの『国家』の格好のテーマとなり、公教育は術策と不正のはびこる社会の一員となるのに最適のやり方となるのです。

とはいえ、パブリック・スクールの校長は非常に多くの子供たちを抱えますので、一人一人に目を行き届かせることは不可能だということは認めなくてはなりません。しかしながら、実際にはこのことは時代のせいなのです。息子を優秀な生徒にしたいと考えるのだが、自由教育に委ねることに満足していない多くの親がいるのです。

実際は、わが国の著名な学校では、近年、この欠陥は修正され、今では、知的な校長先生だけでなく、校長先生の下に適切な教師や助手が配置されています。それにもかかわらず、小生としては、わが国にはこの刺激が不足しているために、弱小の寄宿学校では前途有望な才能が台無しにされそこなわれていることは認めざるを得ません。

小生は二人の田舎の校長先生のやり方を身をもって体験しましたので、どうしても上述の意見になってしまいます。二人とも信頼を置くに値しないのです。一人は、能力がなければ誰も耐えられないのですが、小生に能力以上のものを押し付け、不可能なことをやり遂げないからという理由で酷い仕打ちをしたのです。もう一人はこれとは正反対の気質の持ち主でした。校長先生の使い走りをしたり、コーヒーポットを洗ったり、ベルを鳴らし

4) フランシス・オズボーン『息子への助言』（1656年、オックスフォード）2頁。

たりする少年は、ふさわしいと考える古典に触れることはほとんどありません。小生はこの役目を与えられた若者が料理女の手伝いをして任務を果たしたのを知っています。また、近隣の紳士の息子と5年間ともに過ごしたのですが、その大半の時間を、校長先生のねずみ色の膝当てを乾かしたり洗濯したりして過ごしていたのを思い出します。小生は自らの欠陥のことでこういった優雅な仕事をして妥協するのは嫌でした。そこで優秀な生徒となり、学校では一番扱いにくい生徒でした。

この話を終えるにあたって、小生がまだ触れていませんが、クウィンティリアヌスが述べる公教育に伴う長所について述べたいと思います。つまり、学生時代に、その後の人生において役立つ友情関係を結ぶことが出来るというのがそれです⁵⁾。

この件については、かなり多くの人々によく知られているお話をお伝えしたいと思います。これは正真正銘の事実とお考え頂いて結構です。

ウェストミンスター校をご存知の方なら誰でも、上級生と下級生の部屋を分けるカーテンがあることを承知しています。たまたま運が悪いことに、ある生徒がこのカーテンを破ってしまったのです。どんな過失も大目にみることはしない校長先生の厳しさは有名でしたので、気性のおとなしいこの生徒は校長先生に見つかるのではないかと死にたくなるほど脅えました⁶⁾。するとその時、隣の席の友人が、自分のせいにしてあげるから元気を出すのだと言ってくれたのです。その生徒は約束を守ってくれました。彼らが成人したとき、内乱が勃発し、一人は議会側、もう一人は王党側に与したのです。

二人の気性が異なっていたように、カーテンを破った若者は文官として出世に努め、泥を被った若者は軍人の道を歩みました。前者の人生は順調で、ほどなくして護国卿のもとで判事になりました。後者は不幸なことに西部地域でのペンラドックとグローヴの蜂起に巻き込まれました⁷⁾。この蜂起についてはお知らせする必要はないと考えますが、周知のように、王党側が大敗を喫し、反乱を起こした人々は全員エクセターで拘束されました。その中にこのカーテンの勇者も含まれていたのです。たまたまその時、西部地区への巡回裁判の当番だったのが彼の友人でした。当時こう呼ばれていたのですが、「反逆者裁判」は時間がほとんどかからず、現在では判決文しか残っていません。このとき、旧友の名前を聞き、長年会ったことのなかった彼の顔をじっと見つめた判事は、彼に貴方は以前ウェストミンスター校にいませんでしたかと尋ねました。その返答を聞いた彼は、すぐにその人物がああ寛大な友であることを確信しました。そして、その場では何も語らず、急いでロンドンへ向かいました。ロンドンに着くと、彼は護国卿とのつてを駆使して、友の命を救ったのです。

こうして旧友の感謝の気持ちで命を救われた紳士は、その後、ひとりの息子の父親とな

5) クウィンティリアヌス『弁論術教程』1.2.20

6) ウェストミンスターの校長は有名なりチャード・バズビー（1606-1695）で、市民戦争当時校長の職に就いていた。

7) 1655年3月、ドーセットシャーでいわゆるペンラドック蜂起が起こった。ペンラドックら首謀者十数名が処刑され、他の参加者たちはバルバドス諸島に流された。

りました。彼は生き延びてこの息子が教会で出世していく様を見届けました。この息子は今でも立派に教会の最高位に坐っているのです⁸⁾。

敬具

第314号 1712年2月29日（金曜日）

【スティール】

これ以上お母さんの後をついて回ってはいけません。

もう成長し、大人としての楽しみを持っていい年齢なのですから。

（ホラティウス）¹⁾

観察者殿

2月7日

小生はもうすぐ18歳になる若者で、半年ほど前から同じ年頃の女性に恋をしています。週に6日は彼女に会いに行きますが、不幸なことに二人だけになるチャンスがありません。部屋には彼女の友だちが誰かいて、一緒に会うことになるのです。友だちがいないと、彼女は自分の部屋に駆け込んでしまうのです。彼女が嫌っているとは思えないのですが、結婚のわずらわしさに引き込まれるのを恐れているのか、子供っぽい小心さに駆られているかして、二人きりでは会えません。そのため、実を結ばないのではないのかと考えてしまって意気消沈しているありさまです。そこで観察者殿にお願いですが、私たちが生計を維持して行くに十分な年齢に達しているとお考えならば、愛しい彼女を説得して、母親の後ろに隠れて不毛で不自然な状態で嘆き暮らすことは褒められたことではないのだということ、また、そのうち若い盛りの魅力がなくなるのだということを教えてあげてください。〔彼が結論を出すにはやらなくてはならないことがたくさんあります。〕

敬具

罪のないボブより

もしこの紳士が弱冠18歳であるなら、彼はこの上なく物知りな未成年者と言わざるを得ません。彼には自分の思っていることがすべて似たり寄ったりであることがお分かりになっておられないのでは、と危惧します。それゆえ、ご自身のことをもっと詳しく説明なさるまでは、この娘さんは母親の監視下に置かれることになります。

観察者より

トロット氏の手紙の要請には応じることはできませんが、手元にあるその手紙をそのまま掲載します。トロット氏はこの老紳士に手厳しいのですが、老紳士もまた彼に手厳しいことを熟知されておられます。トロット氏はこの老紳士を義父にしたいと考えているので

8) この紳士はウィリアム・ウェイクとされ、彼の息子はカンタベリー大主教となった。

1) ホラティウス『頌詩』1.23.11-12

すから、彼にはもっと敬意を持って接するべきです。また、小生への手紙の書き方ももっと他人行儀なものにした方がいいのです。しかも、彼が手紙で用いている言葉のつづり字の間違いに気づくまでは、この女性はそのまま閉じ込めておいてしかるべきです。

拝啓

ダンスに関して貴方が与えてくださる助言を守りたいと考えております²⁾。ところが残念なことに、助言は間に合わなかったのです。小生が申しましたように、貴方のご意見を頂くまで跳ね回りを止めるつもりはなかったのですが、貴紙を受け取る前日に、私どもの名高い集いが開かれたのです。そこで、老紳士が現われ、小生が彼の娘に気があることを知りました。彼は小生に向かって取るに足らぬ男だと言い、小生の恋路の邪魔立てをするために、今後は娘を監視すると言ったのです。娘は自室に閉じ込められています。小生はどうかと言いますと、踊りはむなしく、父親に嫌われる覚悟をしているのです。貴方にご面倒をかけますことをお許しください。小生がまともになってこの厳格な老人をやりこめ、娘を獲得するための助言を頂ければ大いに助かります。何卒よろしくお願いします。

敬具

ヨークにて、2月23日、ジョン・トロット
どうか手紙はお好きなように手直しをして頂き、できるだけ速やかに掲載して頂きたいと考えます。乱筆をご容赦ください。

私としては乱筆は容赦できません。

観察者より

前略

何卒、貴殿がお考えの優秀な詩人、とりわけ芝居を書く際の重要な資質をお教え下さい。

草々

エヌ・ビー

品格のある人間になることです。

観察者

拝啓

小生は生来勇敢で、イングランドの男性の誰にも負けないくらい好戦的な人物です。この勇敢な気質のお陰で、小生は舞台での戦いをとても楽しみにしています。ご面倒をお掛けしますが、ニコリーニ氏はオペラの中で小生が最も気に入っている箇所になっても喜ばせてくれないのです。特に満足した歌の時にはいつでも、「アンコール」と叫ぶと、役者はもう一度繰り返すのが慣行になっているものと考えます。小生は先日、オペラ『ヒュグ

2) 第296号参照。

スベス』を観に行きました³⁾。勇者がライオンと戦う場面で、実に優雅にこの獐猛な怪獣を退治し、小生は大満足でした。同時に、この勇者の剛勇と振る舞いは実に高潔なものでしたので、小生は、大きな声で「アンコール」と叫んでもう一度繰り返してもらいたいとの気持ちを抑えることができませんでした。わが友人たちは、小生がオペラを観劇するのは3度目に過ぎないことを考えれば、「アンコール」の言い方がまずまずのできだったと褒めてくれます。だが、それにもかかわらず、小生のことは無視されて、ライオンは舞台から運び出され、眠りにつき、その晩は二度と殺されることはなかったのです。言っておきますが、小生には、ニコリーニ氏がこの獐猛な獣に言うことは理解できませんし、おまけに、音楽は分からないのです。そのため、両者の長時間にわたる言い争いの間、楽しみといえば視覚に頼るしかないのです。観客の誰にも何がどうなっているのか分からないのですから、小生が見て楽しんでいるように、ほかの人は聞いて楽しんでいるとしたら、小生に優雅な演技を再度やって見せてくれてもいいではありませんか。どうか観客のこの要求を受け入れて、いつの時点で「アンコール」と声を上げたらよいのか教えて下さい。小生はイギリス人です。何らかの根拠、おそらくはごく当たり前の根拠を期待します。どうか貴殿のお考えをお聞かせ下さい。

敬具

トービー・レントフリー

拝啓

11月29日

女性の寄稿者たちにまじって、貴方が幾度となく思索なさっていらっしゃる一件について取上げることをお許し下さい。貴方が大人の女性に対してとても素晴らしい影響を与えたことは、私の口から改めて申し上げる必要はないことは分かっています。ところが、私たちの多くは、学ぶには年を取りすぎているか、幼少時から身に付いた虚栄心を捨てきれないかのいずれかなのです。そのため、貴方が私たち女性を立派な振る舞いへと駆り立ててくださっているのですが、誰もがこれを手放そうとしないのです。貴方の助言は、まだ生来の無邪気さを備え、悪徳を知らない女性たちのために振る向けるべきだと私は思います。

僭越ながら申し上げますが、わが国の男性だけでなく、女性の教育についても監視することは貴方の大きな役目なのです。そこで、世間の人たちに貴方が公平であることを納得させるために、貴方が巧みに銜学者について明らかになさったように、男性優位の社会についても明らかにして、教育の偏見と横暴から、男性だけでなく私たち女性をも救って頂きたいと考えます。貴方の時宜を得た介入がありませんと、私たち女性はいま広く行き渡っています悪徳に染まってしまいそうです。

観察者としての貴方の地位の威厳と女性の世界に向けられる確かな眼識の威光が分かっ

3) 2月20日(水曜日)にヘイマーケット劇場で上演された。ニコリーニとライオンについては、第13号参照。

ています私は、貴方にご相談し、若い淑女を教育するさいの要点について助言をお願いせざるを得ません。私自身にはすでに環境の良い適切な家がありますので、忌憚のないお考えを述べて頂きたいと思います。さらに申し上げますと、私の振る舞いに傾倒する人たちは、裁縫やダンスやフランス語のたしなみがあり、貴紙の愛読者です。それゆえ、心からお願いしますが、この大切なテーマに関する貴方のご意見をお聞かせ下さい。誰もが楽しみにしています。私に代わって以下の広告を公表してくだされば、みなさんの好奇心が募ること間違いありません。

敬具

エム・ダブリュー

広告

かつてマイルエンド・グリーンにあった若い淑女のための寄宿学校は、今は、ほぼその真向かいの二つのゴールデン・ボールに建設中で、あらゆる点で以前の学校よりはるかに便利になります。当校では、若い淑女への一般的な教育のほかに、ケーキ作りやジャムなどの保存方法など女性として身につけておきたいことをすべて教授します。当校に関心のある方はステップニー近くのマイルエンド・グリーンにあるゴールデン・ボールにお問い合わせ下さい。必ずやご満足頂けるものと思います。

観覧者殿が若い女性が教育を受けているすべての寄宿学校を訪問されるとのことです。つまり、わが国の有名な両大学への訪問者と同一ように当校を巡視なさる予定です。

観覧者殿への寄稿をなさる方々は、手紙の中で、怠惰ないし創造力の欠如から、わが国2千名を超える女性に間違った表現を自粛してもらいたいものです。要するに、女性は貴重な存在なわけです。

第315号 1712年3月1日(土曜日)

【アディソン】

決して神を登場させることを考えてはいけません。

神に値することを考えるのです。(ホラティウス)¹⁾

ホラティウスは詩人に自らの天分の本性と力を綿密に考慮するようにと助言します²⁾。ミルトンは、自分の力がどこにあるのか十二分に分かっており、自分の能力を完全に発揮できるテーマを選択したように思えます。彼の才能はみごとに崇高へと振り向けられましたので、テーマは誰も考えつかないほど気高いものとなっています。そこには実に卓越した驚異的なあらゆることが盛り込まれています。知的世界のあらゆること、つまり、混沌と創造、天国、地球、そして地獄が彼の詩を組み立てているのです。

筋立てとしては、第1巻と第2巻であらゆる恐怖を伴った黄泉の国を描き、つぎには当

1) ホラティウス『詩の技法』191-2

2) ホラティウス『詩の技法』38-40

然のこととして、その対極にある至福と栄光へと繋がっていきます。

かりにミルトンの雄大さが彼を見捨てるとすれば、それは語り手として神々しい人物を導入する箇所です³⁾。私が思いますに、著者は全能の神の心情について語りながら、ある種の恐怖とおののきに包まれて書き進めていると読者は考えるかもしれません。ミルトンは想像力を全開しないで、正統的な神学書の考えと聖書に合致する表現に従う道を選択しています。それゆえ、私たちがこれらの言説から見出す美点は、詩趣に富んだものでもなく、信心の想い、壮大さの気持で心を満たしてくれるほどふさわしいものでもありません。惹起させられるように考えられている情念は、神への愛と畏敬の念です。第3巻における言説の特に優れた点は、文体が短く明快である点です。ミルトンはこれで、キリスト教精神の最大の神秘性をほのめかし、あわせて、整然と人間に対する敬意とともに神の施しを描いています。彼は（人間の墮落を扱う詩では当然生じる）受肉や贖いといった重要な点だけでなく、予定説、自由意志、恩寵といった深遠な教義をすべて、ほかの著者では見られないほど精力的また明快かつ力強く描いているのです。こういった点は大半の読者にとって分かりやすいことですので、彼の簡潔で明快な扱い方は大いに賞賛に値します。同時に、テーマにふさわしい詩の魅力をちりばめる彼独特の技法もまた賞賛されてしかるべきです。

あらゆる創造物、そしてそこでの営みのひとつひとつの概観は、全知全能の神にふさわしい眺めとなっています。ウェルギリウスはそこにユピテルを引き合いに出しましたが⁴⁾、神に対するキリスト教的観念は、異教のそれより合理的かつ崇高なものとなっています。神が目を向けたとされる特別な物は、非常に美しくかつ生き生きと描写されます。

ところで、折から、全能の父なる神は、上なる世界から、――

浄火燃ゆる天上界から（そこにおいても神はすべての高さものより

さらに高き王座についておられるのだが）眼を下に向け、

己の造ったものとそれらの営みを一目で見渡された。

彼のまわりには、天のすべての聖なる天使たちが綺羅星のように

群がり、その御顔を仰ぎ見、人間の言葉ではとうてい言い尽くせぬ

聖なる祝福の喜びに浸っていた。

右手には、神の栄光の輝かしき像である御独子^{すがた}が坐しておられた。

神は、初め、地上におけるまだ二人しかいない人類ともいえる

われわれの二人の祖先が、幸多き園の中で喜びと愛の、――絶えること

のない喜びと比類のない愛の、慧永遠不朽の結実^{みのり}を、祝福に満ちた

二人だけの孤独を楽しみながら、心ゆくばかり味わっている姿を見給うた。

ついで、神は地獄と、眼下に横たわる混沌とを一望のうちに収め、

3) ドライデンは『シルヴィア』の序文（1685）で、「ミルトンの『失樂園』は実に見事な作品だ。だがそれゆえに、彼が時として100行以上に及ぶ箇所を書き進めているのが明らかなき、彼の精神の高揚には平板な箇所がないと言わざるを得ない」と述べている。

4) ウェルギリウス『アイネ이스』1.223-6

「夜」の領域のうちにこちらに近い側の薄暗い大気をけりながら、サタンが天国の城壁に沿って飛んでおり、疲れた翼といらだつ足を休めようとして、この宇宙の荒涼たる外郭めざして降下しようとしている姿を見給うた。その外郭は固い陸地のように見えたが、まわりには蒼穹はなく、大洋とも大気ともさだかならぬものによって尽く覆われていた。神は、過去と現在と未来を展望し給う高い所から、はるか彼方にいるサタンの姿を見やりながら、未来に起こることを予見して、その御独子に向かって、次のように言われた⁵⁾。

サタンが創造された宇宙の領域に接近するさまは、この直後の神の語りの最初の部分に見事に想像されます⁶⁾。話し掛けられている祝福された天使たちならびに神の子のこの語りが生み出す効果を見れば、読者の胸は密かな喜びと充足感で満たされるに違いありません。

神がこのように語っておられた間にも、祝福され選ばれた天使たちの胸の中には、名状すべからざる新しい歓喜の念が漲った。御子は比類を絶した栄光につつまれておられたが、父なる神の本質そのものがそこに燦として輝き出していた。神々しい憐憫が、果てしなき無限の愛が、いや、測り知るべくもない恩恵が、その御顔に、はた目にもはっきり現われていた⁷⁾。

天使の群れがひたすら沈黙している場面の素晴らしさ是指摘するまでもありません⁸⁾。また、ここで天国における静寂を生み出しているのも実に時宜を得たものとなっています。神の語りが天使たちの讃美歌で終わるのは、とても美しく詩趣に富んでいますので、紙幅が許せば、全文を掲載したいところです⁹⁾。

全能の神がこのように語り終えられるや否や、天使の群れは一人残らず喜びの余り一大歓声をあげた。そのどよめきには、およそ無限無尽の群集から発せられたかと思われるほど朗々たるものがあり、その響きは清らかな声にふさわしく美しい調和にみちていた。天国はこの歓声にわきたち、高く呼ばれるホサナの声はこの永遠の国土の隅々にまで鳴り響いた。……¹⁰⁾

遠くから見ると、球形に見え、近づいて見ると、果てしない平原に見える宇宙の外側を歩くサタンの姿は、自然で気高いものです¹¹⁾。サタンが世界を形作る物質の塊の中を、ま

5) 『失樂園』第3巻56-79行。

6) 『失樂園』第3巻80-89行。

7) 『失樂園』第3巻135-42行。

8) 『失樂園』第3巻217-18行。

9) 『失樂園』第3巻274-415行。

10) 『失樂園』第3巻344-9行。

11) 『失樂園』第3巻418-41行。

だ「混沌」と「混乱」の中にある形をなさない物質の塊の中を歩き回る姿は、実に荘厳かつ荒涼とした想像力を喚起させます。私はミルトンが宇宙のはずれにその場所を据えている「虚栄の辺境」については以前に触れたことがあります¹²⁾。そこで、ここではこれについてさらに詳しく述べるとともに、同じように謎めいたその他の箇所について触れたいと思います。

アリストテレスは、叙事詩の筋立ては説得力があり驚嘆すべき出来事に富んでいるべきだと語ります¹³⁾。また、フランスの批評家たちの言い方を借りれば、筋はありそうなことと驚嘆すべきことに満ちていなくてはなりません。このルールは、アリストテレスの詩の技法と同様にもっともなことです。

もし筋がありそうなことだけで構成されますと、史実と何一つ変わりませんし、驚嘆すべきものだけで構成されますと、ロマンスも同然です。それゆえ、英雄詩の大きな秘訣は、読者に確信と驚きを同時に惹起させる出来事について語ることです。これは、実際に起こったこと、あるいは、少なくとも一般の見方に従って起こりうることが語られる適切な筋の組み立てによって初めて可能となります¹⁴⁾。ミルトンの筋の組み立てはこの種の傑作です。無垢な状態、へびの誘惑、そして人間の墮落は、それら自体とても驚くべきことです。説得力があるだけでなく、信仰の核心でもあります。

奇跡と信頼性を和解させるつぎの方法は、詩人の巧みな創造性です。とりわけ、詩人が驚くべきこと、普通には遭遇することのないことを引き起こすことができる神の代理人を登場させる場合にはそうです。オデュッセウスの船が石に変えられたり、アイネイアスの艦隊が大海へと沈んでいく様子は、実に驚くべき出来事です。それにもかかわらず、神々がそうしたのだと教えられと、それらの出来事はもっともらしく思われるのです¹⁵⁾。この種の機械仕掛けが、ホメロスやウェルギリウスの詩に驚嘆すべきだがもっともらしい出来事をふんだんに盛り込み、読者の心に賞賛という最も満足のいく感情を惹起させているのです¹⁶⁾。この点では例外扱いされやすい『アイネーイス』にその例があるとすれば、それは第3歌の初めの部分にあります。アイネイアスが血を流すギンバイカを引き抜く箇所がそうです¹⁷⁾。この驚くべき出来事を適正化するために、ポリュドールスは、国の残忍な者たちがわが身を槍と弓で刺し貫き、体に残った木がわが傷口に根付き、この血を流す木を生み出したのだというギンバイカの根の由来を語ります。この出来事は、神あるいはその他超自然的な力の介入のない自然な動機に起因していると述べられるのでもっともらしさを伴わない驚嘆すべきことのように思われます。槍と弓は、現代の魔法の助けのように勝

12) 第297号参照。

13) アリストテレス『詩学』24.8.10

14) ル・ボッシュは叙事詩の著者はまず最初に教訓、道德の要点を選び出し、それをベースに据えるようにすべきだと助言している。

15) 『オデュッセイア』13.146-83, 『アイネーイス』9.107-22

16) ル・ボッシュによれば、叙事詩特有の感情は賞賛とのこと。

17) 『アイネーイス』3.19-48

手に成長するのです。ミルトンの筋の組み立てを見てみると、驚くべきことがふんだんに登場しますが、すべて一般に物や人物は通常の考えに合致し、しかるべきもっともらしさが与えられています。ただし、「罪」と「死」に関する挿話や「混沌」の架空の人物の何人かが登場する「虚栄の辺境」については異議を唱えざるを得ません¹⁸⁾。こういった箇所は驚くべきことですが説得力はありません。読者はここにもっともらしさを見出すことは不可能です。これらは物や人物の描写ではなく、夢と幻の描写です。多くの批評家がキルケ、ボルペモス、セイレンの話、いやそれどころか『オデュッセイア』や『イーリアス』の全編を寓話と見なしていることは承知していますが¹⁹⁾、当時の人たちに行き渡っていた考えを考慮すると、おそらくこういった話は文字通り寓話に違いなかったのです。人物も彼らに当然の行動を取ったのであり、出来事もおそらく真実であり事実と考えられるものだったのです。卓越した詩にはこうしたもっともらしく見えることが不可欠だったので、悲劇は英雄たちとは無関係の冒険を基礎にして進行するのだけれど、テーマにより説得力を持たせるために、悲劇作家は実在した偉大な人物の名前を利用したのだ、とアリストテレスは語っています²⁰⁾。要するに、叙事詩の寓話の隠された意味に加えて、包み隠しの文字通りの意味がもっともらしく見えなくてはならないのです。物語は、たとえ洞察力に優れた人たちがそこに自然で道徳的ないし政治的な真実を見出そうとも、普通の読者が同意するものでなくてはなりません。

サタンは、長い間外部つまり宇宙の外壁をさまよった後に、ここは天使たちが人間への使命を帯びて眼下の世界に行き来する門と描写されていますが、やっと創造物に行き着ける広漠たる空間を発見します²¹⁾。サタンがこの道の崖っぷちに腰を下ろしている様子、そして、この状況を解説する比喩を交えながら、彼にとっては目新しく新鮮に映る自然の姿を見渡している様子を見ると、読者の心は驚嘆すべきかつ壮麗な考えで一杯になります²²⁾。サタンは、(ミルトンが第1巻で言う)天使特有の鋭い視力で宇宙の広漠たる空洞を見下ろします²³⁾。彼は天国の門の間に横たわるこの広大な円形の中にあるありとあらゆる驚異を見渡し、一目で創造物の全容を捉えます。

豊富な想像力の戯れが発揮されて、サタンが周囲で輝いているいくつかの世界を飛翔するさまが、太陽に関する特別な描写を交えながら描き出されます²⁴⁾。サタンが光の御使に姿を変えるとときの姿形、言葉、振る舞いは、実に見事に描かれます²⁵⁾。一般的な考えでは創造物の中でも最も顕著なものである太陽にサタンを差し向けるというミルトンの考えは、

18) 「混沌」については、第297号、273号、309号参照。

19) ル・ボッシュなど。

20) アリストテレス『詩学』9.6

21) 『失樂園』第3巻498-561行。

22) 『失樂園』第3巻543-51行。

23) 『失樂園』第1巻59行。

24) 『失樂園』第3巻561-633行。

25) 『失樂園』第3巻634行。

得も言われない着想であり、あらゆる天体に天使がいるというのは、著名な哲学者たちの間で受け入れられた考え方です²⁶⁾、また、聖書に登場するある使徒によれば、太陽に天使を見たとのことです²⁷⁾、詩的なもっともらしさを生み出すのにふさわしいものとなっています。変装したサタンに対するこの天使ウリエルの答えには、上位の天使にふさわしい威厳が漲っています²⁸⁾。ウリエルが自分は創造のときに立ち会っていたのだとする箇所は、実に気高く、その場にふさわしだけでなく、読者に、第7巻の箇所の心積もりをさせるのに欠かせないものとなっています。

この宇宙の物的な質料である形なきものの集塊が、
一つの形あるものへと凝集してゆくのをわたしはこの眼で見た。
その時、『混乱』は神の御声を聞いて鎮まり、狂暴な『怒号』また
忽ち唯々として従い、空漠たる『無限』もまた限定された。
やがて再び神の命令が発せられるや否や、直ちに『暗黒』が退散し、
『光』が燦として輝き出、……²⁹⁾

彼が地球について指摘するつぎの箇所は、読者もまた、同じ目線で見ざるを得ません。
下を向いてあれを、——この太陽から受けた光を単に反射しているとはいえ、
こちらの側が燦然と輝いているあの球体を、見るがよい。
あの場所が、人間が住んでいる地球なのだ。あの輝きが人間のいう
昼の世界だ³⁰⁾。

私としては、『失樂園』第3巻についての考察を終えるにあたって、第3巻の冒頭を飾り、賞賛に値するミルトンの苦情³¹⁾について触れざるを得ません。以前にもそれとなく触れましたように、これはこの詩の本質的な部分というよりはむしろ、余計なものと見なすべきと思います。第3巻に登場する「偽善」についての美しい脱線³²⁾も同じ見方ができるものと考えます。

第316号 1712年3月3日（月曜日）

長い間軽視しており、遅々として達しなかったが、
やっと自由を手に入れた。(ウェルギリウス)¹⁾

26) エイブラハム・カウリーは、『ダビデ讃』（1665）の注で、かつての無分別な考えでは、天はいくつかの天体つまり天球に分かれており、それぞれに天使が任命されており、それを動かし続けていたと記している。

27) 『ヨハネの黙示録』第19章第17節。

28) 『失樂園』第3巻694-736行。

29) 『失樂園』第3巻708-13行。

30) 『失樂園』第3巻722-5行。

31) 『失樂園』第3巻1-55行。

32) 『失樂園』第3巻682-9行。

1) ウェルギリウス『エクロガエ（詩選）』1.27

拝啓

真に迫った苦情をつづった手紙をお読みになって、貴殿に満足して頂けましたら、好意的に受け入れられる望みが出てくるものと考えます。時間が取り返しのできない損失だとしめすと、それに伴う後悔は至極当然なことだ、と小生は思います。長年に渡る怠惰で無為な状態からやっと自由を取り戻し、これ以上無為の侵食をはねつけないとする願いから、小生は貴殿にお願いをする気持ちになりました。さらに、これまでの不安な心持を思い起こし、将来への懸念を考え、早速お手紙を出すことにしたのです。

無為というものは非常に一般的な気質ですので、このテーマに関する万人に有益な思索を想定せざるを得ません。それによって誰もが心の安らぎを得るに違いありません。小生以外にも数多くの人々が、怠惰と無為に終止符を打つというよりもその状態に陥るために、だらだらと不確かな状態で時間を費やすのです。どうやらこれは精神を活性化させ、無気力状態から覚醒させる何らかの目標がないために生じるようです。小生に自由時間がないなら、もっと自由時間を作るべきです。そうすれば、時間を割り振り、仕事の時間と遊びの時間を見い出すことができるのです。ところが今では、怠惰という顔が一面を覆っており、小生を導いてくれる目標を失っています。時間が、堤防内に収まっている水のように、仕事の縛りを受けていれば、確実な歩みをします。だが、水は水路に収まらないと、流れは止まり、用途ないし動きを止められると洪水となります。

エペイロスのスカンデルベグ公が亡くなったとき、何度も彼の力で屈辱を味わってきたトルコ人は、彼の心臓に近いところの骨の1部を身につけると彼の生存中の活力が吹き込まれると考えました²⁾。小生は生存中役立たずですので、死後少しでも役に立ちたいと思い、遺骨は過剰な激情で困っているわが同胞のためになるように処分してもらいたいと指示したところでした。狐狩りをする人たちは、小生の遺骨を身につけると、すぐに朝はベッドから離れられず、おそらく10時に起き出し後悔するに違いありません。心配事を忘れるためにあたふたと狐いじめに出掛けしないで、移動手段としては、椅子かごや馬車がうってつけと考えることになります。小生は、異様なまでにダンスをしたいというジョン・トロット³⁾の良薬になります。また、絶えず動き回りたいとするフィジェット夫人にとっての特効薬となり、彼女は自分の居場所に満足することになります。手短かに言いますと、こういった熱狂的な気質を鎮め、血気さかんなさまを抑え、それぞれの行為にそれなりの重々しさと落ち着きを与えるためには、薬としては、エジプトのミイラ⁴⁾でも小生の半分も効き目はないのです。

小生はいかなる激情をも抑えることができ、ほとばしる怒りとか復讐の誘惑をうまく防ぐことができます。怠惰の歩みはゆっくりとしたものですが、あらゆる美德の基盤を蝕み

2) イスカンデル・ベイとして知られていたギエルギ・カストリオティ（1403-68）は、オスマントルコと戦ったアルバニアの王子。1478年、アレッシオにあった彼の墓が開けられトルコの人々はその骨をお守りとした。

3) ジョン・トロットについては、第296号参照。

4) ハットンはノーフォーク公がグレシャム・コレッジにエジプトのミイラを寄贈したと述べている。

ます。心のさびつきよりももっと活発な悪徳が支配的となり、生活の一挙一動にその色合いを付与してしまいます。それは偶然嵐に巻き込まれ道に迷い、永久にその状態に止められるようなものです。いくら優れた才能があっても、それを発揮する活力と意志がなければ、その才能が日の目を見ることはありません。あらゆる人は死によって平等を取り戻します。死んでしまいますと、つまり心が眠ってしまいますと、どんなに才能豊かな人もどんなに劣った人も差はありません。隠されている賞賛に値することをやれる際立った能力も、使う勇気のない人にとってのお金の山と同様に、その持ち主にとっては何の役にも立ちません。

すべてが修正可能な場合は、明日はまだ重大な時です。確かに明日は来ますが、小生は実体を見失い、ぬけがらで満足します。現在だけが自分たちの時間だということ、将来はまだ先のことだということ、そして過去は過ぎ去ったのだということを忘れています。そして、子供を相手にする両親のように、現在の日常的な営為のなかでしか生きられません。

私たちの生きる時間は、年月ではなく時間の使い方によって算出すべきです。例えば、地所への評価は、土地の広さではなく毎年いくらの地代が入るかによって決まります。あわれで思慮を欠く人は、貪欲のみが行き渡るところでは放蕩者となります。この不安を抱える人たちには何一つ重くのしかかりはしませんし、これをいつの間にか何の効き目もなくやり過ごすだけの方策もあります。地代以上のお金をものともせず使うのだが、わずか1シリングのお金を苦心して蓄えることになります。昨今では、何と言っても、時間の活用に関しては一切注意が払われることはありません。才人とか天才と呼ばれることを有難がり、勤勉な努力家と呼ばれることを嫌がりますので、その評判がたつことを避ける必要があります。だが、これにもかかわらず、いつの時代にあっても才人は、他の点で異彩を放ってきたのです。ソクラテスもデモステネスも、絶えず欠陥を克服し、天分に磨きをかけようと努力したことで、名声を失ったとは誰にも思いもつきません⁵⁾。キケロが雄弁を手に入れたのは刻苦勉励のお陰であったことは周知のことです⁶⁾。セネカはルケリウスへの書間で、何かを書くあるいは何か優れた著書を読み抜粋を作らなかった日は一日たりともなかったのだと語っています⁷⁾。プリニウスがある書間で、暇な時間をつぶすさまざまな方法の説明をし、その方法を列挙していたのを思い出します。彼が言うには、時々狩りに出たとのことですが、そのときでも彼は絶えず手帳を持参し、召使たちが網やその他の準備をしている間に、研究に役立つと思えることを書き留めたとのこと。また、かりに獲物がなくても、何らかの考えを持ち帰ることができ、獲物がなく1日無為にすごしたとのくやしさを覚えなくて済んだとのこと⁸⁾。

かくして、小生が再び自由を獲得するために、いかに多くの例を思い起こし、どれだけの論拠を用いたかがお分かり頂けると思います。ところで、これだけでは有益な説得力を

5) プルタルコス『デモステネス伝』6-11

6) プルタルコス『キケロ伝』5.3

7) セネカ『書簡集』2

8) プリニウス(小)『書簡集』1.6

もたないと危惧しますので、とりわけ善は小生だけに限られたものでなく、万人にとって役立つものですので、このテーマについて貴殿の切なるお考えを期待したいと考えます。人が破滅を喜び、怠惰が望ましいと考えている間は、改心の望みは皆無なのです。その状態そのものを好むのか、努力するときに新たな輝きを発揮すると考えるのか、これはどうやら刻苦勉励でしか不可能なことに思えます。

敬具

サミュエル・スラック

クリタンダーからクレオーネへ

お嬢様

切なるお願いですが、どうか私の貴女への愛を受け入れてください。万難を排して、貴女が申し出ておられる難題は克服し、その資格を満たしたいと考えます。

クリタンダー

第317号 1712年3月4日(火曜日)

【アディソン】

食って飲むために生まれた。(ホラティウス)¹⁾

アウグストゥスは、亡くなるほんの少し前に、自分はうまく立ち回ったと思うかと、周りにいる友人たちに尋ねました。彼の非凡な長所に見合った返答を聞くと、それでは諸君の拍手喝采を浴びながら、この舞台から退場することにする、と彼は語ります²⁾。これはローマの役者たちが劇の終わりに用いる表現を利用したのです。私としては、人々が健康な間に、自分たちの関わっている役割を十分考えて、後に残る人たちの心にどんな像を残すか考えておいて欲しいと思います。存在した価値があったのか、理性をわきまえた人物にふさわしかったのか、要するに、現世において品位を保ったのか、来世では引き立てられるのかといったことを考えておいて頂きたいのです。追従屋とか粗野な者や皮肉屋とか不埒者は、墓に入り、魂が来世に委ねられるときに、誰にも負けないくらい人々の心を蝕んだことがどれだけ賞賛に繋がったか、友人たちをあざけることでは、自分がいかに才能に恵まれていたか、意地の悪い冗談をつくことでは自分を出し抜く者はいなかったのだということ、また、眠りにつくには必ずボトルを3本空けたのだということなどを考えればよいのです。しかしながら、自分たちの行動が際立ち信望を得た故人に対しては、弔辞や賛辞が述べられるのが普通です。

ところが、その他大勢を見てみますと、一般的に、亡くなるとすぐに忘れられてしまいます。彼らは存在の跡形も残しませんし、あたかも存在していなかったかのように忘れら

1) ホラティウス『書簡詩』1.2.27

2) スエトニウス『カエサル伝』2.99.1

れます。彼らは貧者から必要とされることもなく、富者から後悔されることもありません。また、学識者から褒め称えられることもありません。彼らは国から残念がられることも、一般人から悲しまれることもありません。彼らの行為は人類にとって意味を持たず、威厳と言う点では理性の力が顕著な人たちよりもはるかに劣った人たちが演じた行為に過ぎません。ある著名な著者がどこかでつぎのような的を射た発言をしています：私は自分の部屋の窓から二人の気高い人物をよく見掛けます。二人とも表情はしっかりしており、生まれながらにして分別が備わっています。この知的なお二方は、朝から晩まで二つのすべすべとした石、俗っぽい言い方をしますと、大理石を磨いて過ごしているのです³⁾。

わが友サー・アンドリュー・フリーポートは、昨夜クラブで一緒していたときに、亡くなって数日経つある真面目な市民のことを話題にしました。世間の目よりも自身のことを重視するこの誠実な人物は、この数年欠かさず日記をつけていたのです。サー・アンドリューは私たちに1週間分の日記を見せました⁴⁾。この日記に記載されている出来事は、私が今ここで述べています行為の道筋を如実に示していますので、読者に、その写しを忠実に再現したいと思います。読者に前もってお知らせして置きますが、この故人は若いとき商売人になるように育てられましたが、自分はその仕事には向かないと考えて、この数年はもっぱらまずまずの年金に頼って生活していたとのことです。

月曜日：午前8時、着替えをして居間に向かう。

午前9時、膝のひもを結び、手を洗う。

午前10時から12時、バージニア産タバコを3服。サプリメントとデイリー・クーラントに目を通す。北部では状況が悪化。ニスビー氏の意見。

午後1時、タバコ入れを置き忘れたことでラルフに小言。

午後2時、食事。メモ：プラムばかりで甘いものなし。

午後3時から4時、午睡。

午後4時から6時、野外を散歩。南南東の風。

午後6時から10時、クラブ。ニスビー氏の平和に関する意見。

午後10時、就寝。熟睡。

火曜日：祭日。午前8時、通常通り起床。

午前9時、洗面。髭剃り。二重底の靴を履く。

午前10時から12時、イズリントンまで散歩。

午後1時、マザー・コブのマイルド・ビール1杯。

午後2時から3時、帰宅し、子牛のひざ肉とベーコンの食事。メモ：芽キャベツの量少なし。

3) これはラ・ブリュイエールの回想と思える。

4) この日記はある独立教会派信徒に対するひやかしだったとのこと。ジョン・ダントン（1659-1733）の自伝で言及されるネスビットという人物は、この宗派の牧師で、日記作家からいろいろな場面で引用された。

午後3時、例によって午睡。

午後4時から6時、コーヒーハウス。新聞を読む。ツイスト（混合酒）⁵⁾。大宰相絞殺⁶⁾。

午後6時から10時、クラブ。ニスビー氏によるオスマントルコの解説。

午後10時、大宰相の夢。熟睡できず。

水曜日：午前8時、靴の締め金の釘が壊れる。手を洗うが顔は洗わず。

午前9時、肉屋への支払い。メモ：マトンの足肉分は割引。

午前10時から11時、コーヒーハウス。北部ではさらなる動き。黒い髪をつけた見知らぬ人物から株の動きを尋ねられる。

午前12時から午後1時、野外を散歩。南の風。

午後1時から2時、タバコを1服半。

午後2時、通常通り食事。食欲旺盛。

午後3時、午睡中、ピューターの皿が落ちる音で目覚める。メモ：料理女が恋をしており、注意散漫になっている。

午後4時から6時、コーヒーハウス。スミルナからの情報では、大宰相はまず首を絞められ、その後打ち首になったとのこと。

午後6時、クラブに行くが30分間は誰もやって来ない。ニスビー氏によると、大宰相は今月6日に絞殺されたわけではないとのこと。

午後10時、就寝。翌朝9時まで目覚めず。

木曜日：午前9時、サー・ティモシーのために午後2時まで在宅。約束どおり年金を持参してくれぬ。

午後2時、食事。食欲なし。スモール・ビールは変な味がし、ビーフは塩がきつ過ぎる。

午後3時、午睡できず。

午後4時から5時、ラルフの横っ面を張る。料理女を解雇。サー・ティモシーに伝言。メモ：今夜はクラブへ行かず、午後9時に就寝。

金曜日：午前中は、午前11時45分まで居たサー・ティモシーについて瞑想して過ごす。

午前12時、ステッキのヘッドと留め金の釘を購入。食欲回復のために、パール酒を1杯⁷⁾。

午後2時から3時、食事。熟睡。

午後4時から6時、コーヒーハウス。ニスビー氏に出会う。パイプを数服。ニ

5) ツイストは紅茶やコーヒーにジンやブランデーを混ぜた飲物。

6) オスマントルコの大宰相メフメトについては、当時の新聞にさかんに掲載された。1711年12月27日の『ポストマン』紙には、彼が退位させられ、親衛隊の高官が彼の地位に就いたとの噂が載った。また、1712年1月1日の『デイリー・クーラント』紙には、彼はまだ皇帝の信頼を得ているとのウィーンから特電が報じられた。

7) ジンを入れて熱くしたビール（パール酒）については、第88号参照。

スピー氏によると、アルコールを加味したコーヒーは頭の働きによくないとのこと⁸⁾。

午後6時、クラブ。給仕長を務める。いつもより長居をする。

午後12時、就寝。大宰相とスモール・ビールを飲む夢を見る。

土曜日：午前11時起床。野外を散歩。南東の風。

午前12時、にわか雨にあう。

午後1時、帰宅し、体を乾かす。

午後2時、ニスビー氏と食事。ブルックスとヘリエー⁹⁾を飲みながら、1品目は髓骨料理、2品目は牛の頬肉。

午後3時、寝過ごす。

午後6時、クラブ。側溝に落ち込んだ感じ。大宰相が死亡したのは確実。

読者は上記の日記作成者があまりにも取るに足らない行いに気を配り、何一つ進歩がないことを知って驚かれると思います。だが、私たちが日々交わっている大多数の人たちのことを考えて見ますと、食事、飲酒、睡眠という3つの重要な事にその時間の大半を割いていることが分かります。私は、公的な仕事とか輝かしい活動に従事していない人物が時間を浪費しているとは思えません。それどころか、人々の注目を浴びるような人たちよりも、目立たないことをやっている私たちの方が、時間を有益に費やしているものと考えます。目立たず静かにいろいろなことを行うことで賢明になり、騒ぎ立てることも見せびらかすこともなく、賞賛に足ることを行うことができるのです。けれども、私は読者のみなさんには、1週間日記をつけ、その間の出来事を正確に書き留めることを奨励します¹⁰⁾。この種の自己検証をしますと、自己の真の姿が見えて来て、自己について真剣に考えてみたくなります。1日を振り返ることで、つぎの日には怠慢を修正することになり、簡単に忘れますが、確実に責任を取らなければならないどうでもよいことを大切に思うようになるのです。

第318号 1712年3月5日（水曜日）

【スティール】

何もかもできる人なんていない。（ウェルギリウス）¹⁾

拝啓

貴殿が先般取り上げられた悪徳は、人々の心に浸透してはなく、まだまだ気取りが生き残っています²⁾。戦いに備えて育てられた人たちはこれ以上ないほど弱々しい老齢になっ

8) アルコールを加味したコーヒーのことを laced coffee と言った。

9) トマス・ブルックとジョン・ヘリエーは、ブレッド・ストリート、ベイジング・レーンのワイン商。

10) リリーは、T.Tの付けた日記を出版した。

1) ウェルギリウス『エクロガエ（詩選）』8.63

ても、その顔つきにはある種の向こう見ずな感じが残っていることにお気づきになられているに違いありません。同様に、武勇と冒険の人生を送った人たちは、可能な限りその様子を維持し続け、今わの際まで怒りっぽさを失いません。以上は小生がこれから述べる老伊達男の前置きとなります³⁾。この老人は好色で女性全般に関心があるだけでなく、白髪という警告があるにもかかわらず、63歳の年から現在の70歳に至るまで、実際に、立派な友人の細君である若いご夫人を追いかけけているのです。この陽気な老人エスカラスは才人で健康に恵まれ、生まれも申し分がありません。だが、彼は若い頃に身につけた宮廷の流儀から、色恋沙汰がごく自然なものとなっていますので、紳士の邸宅で許されるなれなれしい言動を利用しないのは永遠の恥となると考えたのです。彼は上機嫌に自信を持って振る舞いますので、細君は言い寄られていると考えたわけです。可能性としては、特に夫が自分に対して無頓着であることに、エスカラスが憤慨したこともあげられます。彼が細君に対する気持をあれこれほめかしたのですが、夫はそれが分からなかったのか、あるいは見て見ぬ振りをして彼を馬鹿にしたのです。一方、イザベラは、わが主人公をこう呼ぶことにしますが、彼の気持が分かり、これが自分の評判に悪影響は及ぼさないと考えて、大きな気晴らしのよりどころ、褒められ、言い寄られ、へつらわれるという素敵な喜びにふけるチャンスと考えたのです。この夫人は絶えず上機嫌で、自由奔放な振る舞いをする人物なのです。彼女は天真爛漫そのもので、諦めている人に悪徳を助長させるような人なのです。この種の身のこなしと慇懃な言動によって、エスカラスはさかんに恋文を用意し、彼女の行いに細やかな眼差しを向け、無関心な人たちなら無視しますが、夢中になった人たちなら行動に移す、ささやかな数限りない好意を寄せたのです。そして現在、上でそれとなく述べたように、情熱を捧げて7年目の終わりになろうとするところですが、一般的に言っても、また、犯罪的な恋人たちが保っている曖昧な関係からしても、エスカラスは自らの情熱があまりにも激しくなり、彼女に対する自らの振る舞いに申し開きできなくなっていることを嘆き悲しみ始めました。そこで、彼はもはや不幸な持ち主に管理できなくなった心の動きを弁解するために、彼女が長期間に渡る忍耐強い関係を考慮してくれることを望みました。エスカラスは、以上のことを数ヶ月に渡って、イザベラへの話の中でも、手紙の中でも述べて来ました。すると彼女は、50年の集大成であった数限りない愛情溢れる言動に対して、「貴方のお言葉に耳を傾けていけないのです。貴方と会っていると、貴方が紳士だということを忘れてしまいます。私としましては、友人としての貴方を失いたくないのです」といった表現で応じました。かよわい拒絶が控え目な同意であることが十分分かった上で、巧みに両者のためを考えて返答したのです。最初に申し上げておくべきでしたが、イザベラは、この色恋沙汰の間終始、夫にそのことを伝えていたのです。エスカラスの愛に関する報告は、半日不在にした後でのいつもの気晴らしとなっていたのです。それゆえ、最近のあからさまな攻撃を受けたときには、夫に向かって、イザベラは笑

2) 第266号、274号、276号、286号、298号参照。

3) エスカラスとイザベラの話は、ユスタス・ファン・エッフェンの定期刊行物『人間嫌い』(1711年9月14日)の翻案。

いながら、もうこれ以上持ちこたえられません、あの人の運命は危機的状況になっています、と言ったのです。彼女はもう少し詳しく自分の気持ちを伝えた後、夫の同意を得て、つぎのように続けました。今度、エスカラスと二人だけになり、彼が再度懇願してきたら、巧妙なイザベラは、この秘密が自分にとってどれほど重要なことであるか考えているかのように、とても真剣なふりをして扇に目をやりました。そして、熱烈な言葉が繰り返されたら、彼を愛情深く見つめ、彼に夫人の愛を自慢する年齢は過ぎていらっしゃるのだと語りました。そして、とても困惑した表情を浮かべて顔を背けたのです。これで老齡のエスカラスから逃れたのでした。この冒険は、イザベラと夫双方にとって、とても愉快な事件でした。二人はこれでもって2日間楽しんでいましたが、そこに、われに帰ったエスカラスからつぎのような手紙が舞い込みました。

拝啓

先日の出来事で、人間の感情と気質といったものはいかに矛盾を孕んだものであるかが鮮明に理解できました。私たちは否定されるものを追い求め、あるときには軽視するのだが、なくなると愛着を覚えるものです。貴女が私の愛を拒絶する限り、あなたの拒絶が私の情熱を一層煽りますので、貴女の操を損なわせないようにとの理性を想起させる余裕はひと時も持てなくなっています。だが、その操が私に味方し始めますと、私の愛をめぐって理性が働き、貞節な女性を誘惑している私の振る舞いの卑劣さに気づいたのです。白状しますが、私の気持ちを克服するのはこの上なく辛いことでした。それどころか、恥を忍んで申し上げますが、逃げ出すしかその道はなかったのです。しかしながら奥様、長年に渡る頑強な貞節に裏打ちされた貴女への評価は一瞬の気弱さによって台無しになってはいないのだということだけはお分かりください。これが若い人たちに見られないところのことだったことを喜ぶのもごもっともです。若者なら、貴女の弱さを暴き出し、野卑な気持を得意がっていたに違いありません。

敬具

イザベラは夫の助けを借りて、つぎのような返信をしました。

拝復

このように素敵なお手紙を書くことができ、失望を巧みに乗り越えることができる恋人を持てた私は、とても幸せな女性と言わざるを得ません。私がこれまで噂に聞いた方々はたくさんいらっしゃいますが、非常に理性的な方が理性を無くした場合に、貴方がお示しになられたものは、誰にも増して力強いものでした。お互いに、一方の情熱が燃え盛るにつれて、他方の情熱が分別をわきまえて減じられるという私たちの非凡な才能を感謝すべきだと思います。私が従順にしていたことが、貴方に対してとてもうしろめたく思うこの上なく残酷な行為だと私が考えていたことを思いつかれたことはございますか。貴方の長期に渡る誠実な情熱へのお返しとして、貴方はもっと沈着になられてもよい年齢に達して

おられるのだとお知らせしなくてはなりません。ですが、貴方が私との縁を切って、どこか別の場所で発揮なさる場合には、どうかうまく行きますように。

敬具
イザベラ

第319号 1712年3月6日(木曜日)

【バジエル】

この変身の能力を備えたプロテウスを縛り付けておくには
どんな鎖をもってすれば可能だろうか。(ホラティウス)¹⁾

紙面では、年齢を公平に評価するように努めてきました。そして、私自身はできるだけ男女両性の中立を保つように注意を払ってきました。愛想をふりまいて女性に情けをかけることもなく、えこひいきから男性に甘くなることもありません。ところが、この点では非常に誠実に振る舞っているにもかかわらず、どうも男性を最真目に見る傾向があることで自分を責めていることに気づきます。それは女性のほうが思索の対象として実りがあるためなのか、男性よりも女性のほうが思いつく回数が多いためなのかは分かりませんが、私としては、つぎの手紙にある私に対する非難をそのまま掲載したいと考えます。

拝啓

私は毎朝貴方の思索を熟読しています若い女性の一人です。女性一同から、貴方がどうやら男性に最真しているのではないかと、その旨を貴方に伝えるようにとの任務をつい今しがたおおせつかった次第なのです。とはいえ、貴方が時には男性にしばしば返しをして、私たち女性を公平に評価しておられることは、しかるべき謝意を払って認めなくてはなりません。もし貴方が伊達男の頭を私たち女性にいけにえとして捧げていなかったら、あだつばい女の心臓の解剖所見は簡単には許せなかったに違いありません²⁾。

しかし、貴方が私たちのフードや髪飾りを攻撃してほどなく、貴方の言い方を借りますと、私たち女性の大半が頭を見せるのを恥ずかしく思うようになったことは覚えておいて頂かなくてはなりません³⁾。そこで、私たちはそう期待しているのですが、もし貴方がしかるべき調査をなされば、頭を飾ることに關しては、いつの時代でも男性は、私たちと同様に執心していたのがお分かりになると表明せざるを得ません。男性の気取った多様な帽子の被り方に加えて、さまざまな鬘の形、これらはすべてこの考えの裏打ちとなります。

昨年夏、私方に謙虚な召使が一人いましたが、彼が初めて仕事を求めてわが家にやって来たときには、背中まで垂れている鬘を被っていました⁴⁾。だが、大いに驚いたことに、

1) ホラティウス『書簡詩』1.1.9

2) 第275号、第281号参照。

3) 第265号参照。

4) 王政復古期に流行ったフランス式の巨大な鬘は、この当時にはごくフォーマルな機会以外では流行

翌日は飾り気のない薄い鬘姿で私に挨拶をするのでした。私は二度目の面接では、彼を申し分の無い闖入者として受け入れました。だが、話を聞いて彼の素性が分かったとき、非常に狼狽しました。それゆえ、私は今後のために彼の顔を記憶に留めることにしました。その日の夕刻、公園を散歩していましたとき、私が思いますに、彼は、貴方のおっしゃるナイトキャップを被っているように見えました⁵⁾。これによって、彼はそれまでよりもずっと効果的に変身していたのです。以後、彼は乗馬用の黒い鬘を2つ見せ付けましたが、これも見事な変身振りでした⁶⁾。要するに、最初の1ヶ月は、ほぼ毎日新しい顔を見せたのです。

その後、彼のいろいろ気取った帽子の被り方が大きな効果を発揮し、私は彼の要求を飲むことになりました。

だが、貴方はきっとお気づきになっておられることでしょうか、こういったことでは男性の頭を際立たせるには不十分であるかのように、ここ数ヶ月というもの、多くの若者たちが羽飾りを付けているのです⁷⁾。

それゆえ、公平な評価をして、貴方が色つきフードを被った女性を「インディアン女王」⁸⁾との呼称をお付けになったように、羽飾りを付けた若者たちを「インディアンの王子」と呼んで欲しいものと思います。そして、そのうちにこの気取った殿方を思索に取り入れて頂きたいと考えます。

私たちとしましては、この風習に終止符を打って頂きたいと切にお願いいたします。と申しますのは、私たちの素敵なお仲間を一人失ってしまったからなのです。彼女は数名の資産家の求婚を断った後に、先週、多様な羽飾りを付けた殿方に誘惑されたのです。

以上、女性一同を代表してお願い申し上げます。

敬具

ドリンダ

注：羽飾りを付けた人物を、友人は近衛連隊の士官と思いましたが、名うてのリンネル商人であることが判明しました⁹⁾。

今は帽子と羽飾りに関する私の意見を述べる暇はありませんが、この汚名を晴らし、女性の寄稿者に満足して頂くために、この道では並々ならぬ天分を持っておられると思われるある洒落者から最近貰った手紙をここに掲載したいと考えます。

おくれとなっていた。

5) この鬘はナイトキャップに似ていた。第129号参照。

6) 本紙の初期のころの印刷評者だったリチャード・ナットによれば、ステイラーは散髪屋に年間50ポンド支払ったとのこと。黒の背中までの長い鬘はほぼこれと同額だった。

7) 羽飾りについては、第281号参照。

8) インディアンの女王については、第265号参照。

9) グレゴリー・スミスによると、バジェルのここで述べているのは第259号の広告にあった歩兵第一連隊の脱走兵のことを想起していたとのこと。この人物は名前をジョナサン・バートンといい、背丈は5フィート10インチ、髪の色は暗褐色で、年齢は25歳前後のリンネル商とのこと。

拝啓

こんなことを貴殿にお知らせする必要はないと思いますが、洒落者たちの間では、よく誰某氏が見事な手際を発揮したという表現を用います。これは、その人が勇敢にも流行の仕掛け人になっているということなのです。したがって、仕立屋は採寸する場合に、普通のものになさいますか、それとも見事な手際を発揮なさいますかと尋ねます。自惚れからではありませんが、小生自身、グレート・ブリテンの誰よりも見事な手腕を発揮してきたと言えると考えています。小生が最初に長いポケットを流行らせてから2年経ちました。同様に、つや消しのボタンを流行らせたのも小生でした。人々が鉄は熱いうちに打てとばかり、いさんでこのつや消しボタンを付け始めているのが分かると、ほぼ同時に、小生はポケットの扇形の垂れ蓋や結び目つきの首巻を世に出し、銀の刺繍入りストッキングを普及させるために努力したのです。

その後2、3ヶ月すると、小生はつぎには最新モードのジャケット、つまり、そでがピツタリしたコート¹⁰⁾を世に問いました。最初は地味なドイリー¹⁰⁾で試しましたが、失敗しましたので、2度目はブルーのキャムレット（ラクダ織り）¹¹⁾にしました。そしてさまざまな布地で試み、やっと上手くいきました。ロンドンには常に小生に注目し、負けじと向こうを張ってくる若者が2、3名います。小生はかつて軽率にも、小生の考えを無断借用するほど世間知らずなこの若者の前で、最新流行の外套について小生の思いつきを口にしたことがあります。こうして、小生が考えていることの先手を打ったことがあるのです。

この春はチョッキに新基軸を打ち出す計画で、すでに、そでの実験を始めましたが大成功しています¹²⁾。

さらにお伝えしておかなくてはなりませんが、貴殿の励ましを、少なくとも、小生のことを大目に見てくだされば、来月初めには町の人たちをあっと言わせるようなことをやってみせる予定です。

貴殿に小生の考えている服装のことを事細かにお知らせすることは分別のあることだとは思いますが、ほんのささやかな一例、つまり、小生はほどなくサクランボ色の帽子でホワイト・チョコレートハウス¹³⁾に姿を見せることになるただけお伝えしておきます。これは、ご婦人方のフードからヒントを貰ったのです。このフードは女性がここ300年で示した最も見事な手際だと小生は考えている次第なのです。

敬具

意気盛んなウィルより

小生には今この手紙に対する意見を述べる暇はありませんが、この手紙をウィル・ハニコムに見せましたら、是非ともこの手紙の書き主と知り合いになりたいとのことでした。

10) ドイリーは安価なウール生地。リンネル商ドイリーについては、第283号参照。

11) キャムレット（ラクダ織り）については、第104号参照。

12) ジョージ2世（在位1727-1760）の治世が終わる頃までは、チョッキには普通そでが付いていた。

13) ホワイト・チョコレートハウスについては、第49号参照。

第320号 1712年3月7日（金曜日）

【スタイル】

不幸なことに、結婚にはユノも三女紳たちも
ヒュメンも立ち会わなかった。

復讐の女神フリアエたちが新床をのべたのだ。（オウィディウス）¹⁾

拝啓

貴殿は女性に策を弄する男性に不利になるようなことをあれこれと語っておられます。中でも、貴殿は「女たらし」²⁾という言葉を使用されています。彼らは、勝手気ままな振る舞いをして、愛しているかと思えば冷淡になったりして人の気持を弄ぶために、誘惑されやすい娘さんは、ため息をつき、夢にうなされ、涙を流すことになるというわけです。その結果、娘さんは軽率な伊達男のせいで悩み暮らすことになるということです。一方、伊達男は、驚いた様子でたんなる親切心がどうしてこんなことになるのか訝しがっているだけだということです。貴殿は結婚に優柔不断な男性のことをこのように扱いますが、もし貴殿が公平を考えておられるなら、小生がここでお伝えする結婚のことでは媚を売らず、尊大にも結婚は自分たちの気に入った人以外は駄目だという女性たちの一団に関する情報を活字にして頂きたいと思います。小生はどうかと言いますと、自身彼女たちと関わるべきでなかったのですが、彼女たちのせいで、わが意に反して会ったこともない人と結婚する破目になったのだと理解しています。不幸なことに、小生は無邪気にも潤沢な財産を喜び、立派な馬車を注文し、何着もの高級な服だけでなく素敵なかぎタバコ入れを2、3個持ってくるようにとの指示を出すのです。だが、こういった品が手に入る前に、小生が2、3人の娘と結婚するとの噂を耳にしました。しばしば一緒になる若い紳士に目を留めていますと、彼が小生に笑いかけて尋ねてくるのでした。お分かり頂けると思いますが、彼が何を言おうとしているのか分かって、小生は大層驚きました。また、最近何かいいものを注文なさったかと訪ねられたときにも驚きは隠せませんでした。小生はいくつか喋りました。それに対して、彼は小生が雇っていた商人たちから聞いた小生の人柄について口にし、彼らは確かに小生に不利な情報をもたらしたのだと言いました。観察者殿、世間の人々が小生のことをどのように思っていようとも、小生は愚か者というよりも伊達男なのです。小生は目新しさに少なからぬ喜ぶ小生のこの頭についてとても好奇心を持ちました。わが友が言うには、6人で委員会を構成しているある上流階級のご婦人方がいました。彼女たちは、男女独身者に関する審理という名目で、週3回会合を持ちました。小生のような無分別な陽気者が話題になるときにはいつでも、どうやら、この人物は必要なものは何でも欲しがるといことになるか、または、その人が雇っている商人の調査をすることになるようです。彼女たちは常に、ステッキ店、香水商、玩具店³⁾、馬車製造業者、および陶磁器商に

1) オウィディウス『変身物語』6.428-9, 431

2) 「女たらし」については、第288号参照。

3) 玩具屋は、宝石などの装身具を扱っていた。

スパイを送り込んでいます。この結婚請負業者は、葬儀屋におけるワイン商や薬屋の場合と同様に、こういったところに絶えず情報網を張り巡らしているのです。独身者は全員、直ちに彼女たちの検閲にさらされます。そして、わが友が委員会に報告書を提出したのです。小生と一緒に町にやって来た叔父ともども、この委員会の俎上に載せられ、この次第に至ったわけです。叔父は胡散臭く無愛想で貧しく、甥は粗野で愚かで今は健康で大層豊かです。小生に関する情報はこれだけではありませんが、わが友が与えてくれた情報は申し分がないもので、小生と結婚することになる娘さんへの手紙を見せてくれました。その手紙の写しを同封します。

敬具

前略

お知らせですが、貴女は木曜日の夕方6時に現われる伊達男と結婚することになります。公園にいらしてください。うぶな気取り屋さんはすぐに分かります。粹に見せようとしていますが、平静さを失っているのです。彼に関しては、委員会としては何件かお断りしました。せいぜいお楽しみください。

草々
コリンナ

この寄稿者のケースを一層嘆かわしいものになっている点は、わが結婚検閲官⁴⁾からの報告から分かるように、彼が言っている友人自身が彼の尋問に首を突っ込んでいることです。あれこれ言っていますが、友人は一人の女性についての情報、それも間違った情報しか持っていません。なぜなら、委員諸氏は彼のことを快く思っていない別人を雇っており、友人には彼に警告を発する役を割り振っているからです。この若い紳士に関しては、とても巧みに策略が張り巡らされていますので、逃げ込む友人も、出没する場所、つまり、この国には逃げ出せる場所也没有。注目にさらされ、尋問に屈するしかないのです。彼女たちはこの国の各地に密使や代理人を準備しています。通常彼女たちが講じる第一段階として、使者やたれこみ屋を使って、彼女たちが仕掛けた罠にはめられることになる独身者の奉公人と接触させ、その人物の行儀作法や女性関係や長所や欠点などを探らせます。良い点が推薦となり、悪い点がそうでなくなるのではなく、こういった情報は、彼の資産はいかほどかという肝心な調査に影響を及ぼすあるいはその一助となるのです。委員会に十分な報告があがりますと、生きのよい獵馬、若くて温和な伊達男を採用することになります。これによって、彼は割り当てられている以外のすべての場所で心が休まらなくなります。親しいハンターも飲み仲間も伊達男仲間も、徒党を組んで彼に不利な立場を取ることになります。その場合、これは彼の目の前であからさまに行われることはなく、誰某婦人が細君にふさわしいとほめかす程度なのです。しかし、彼女たちは情報力によって、

4) 「結婚検閲官」については、第308号参照。

(ウォラー氏が「こびとたちの結婚」で言っているように)⁵⁾ 自分たちが念頭においている女性以外のどんな女性も不可能だと思わせてしまいます。ちょうどそれは、アダムとイヴの関係のようなもののなのです。誰某婦人のために、委員会から指名された人物は、彼女たちの決定を回避でもしようとしたら、お洒落ではないということになり、今後人前に出られなくなってしまいます。

女性は全面的に家庭生活を支配します。このため、女性たちは、適当と思えば、親友たちの間に不和の種を蒔くことができますし、いやそれどころか、一方に感謝の念という絆、他方に庇護という義務感があっても、父と息子を和解が不可能な敵対関係にすることができます。審理をするこのご婦人方は、このことを十二分に理解しています。そこで、彼女たちが割り当てた女性を選ぶときに、愛情が動機とならない場合には、誠実さとか勇氣さに付け入るような話を巧みに入り込ませます。その結果、意気をくじかれてしまった彼は、周囲の人たちの間に悪評がたつことが耐えられなくなり、やがては避難場所として、指名された人と結婚する事態になります。今月4日付けの長文の手紙が手元にありますが、この手紙には、この委員会の手法が詳しく述べられています。また、この手紙によると、この2年間彼女たちのありとあらゆるたくらみをかわした強情な人物がいることが分かります。彼女たちはこの人物の意向に沿う縁組みを2件続けて妨げました。1件目は、女性は結婚することになり、結婚衣装も買い求め、用意万端ととのっていたのだという噂によって、2件目は、女性側の友人や知人に、彼が別に数名の女性に不実を働いていたのだとほめめかすことによってご破算となったのです。この気の毒な男性は、今では、独身のままでいる積もりだと明言する有様です。だが、委員会は知人たちにこの紳士の繁栄と幸福しか考えていないのだとの見解を公表しています。この紳士は、こういつて説得されますと、一層謙虚に、自分はただただ苦悩や非難のない生活を望んでいるのだと異議を唱えます。自分は喜びとか名誉とか富は関心がないというわけです。気性はいいのだが歳を取りすぎているとか若すぎると言ったり、彼女たちには6月から1月までずっと論争しかできないのだと言ったりして自己弁護するのだが、誰もがそれは気分がすぐれないからだ、妻を持たなくてはならない、と彼に言います。その一方で、委員会のメンバーは全員、彼に対して満場一致である女性を勧め、そして、彼やその他の誰よりも自分たちの判断の方がすぐれていると考えているのです。

1711年3月3日、テンプルにて

拝啓

怠惰のテーマに関する本日の貴殿の思索を読んでこの方、ここでだらだらと過ごしている10年という期間（というか休暇）を考えて後悔しています。不幸なことに、その間ずっと部屋も書斎も無駄だったのです。書物は（枕にする以外には）まったく顧みられること

5) ウォラー『こびとたちの結婚について』1-6 エドモンド・ウォラー（1606-1687）は国王派の詩人兼政治家。

はありませんでしたし、わがクック卿やその他著名な著者たちがこれほどおろそかにされたことはなかったのです。小生に言わせると怠け者クラブと呼べる近所のコーヒーハウスで一日の大半を過ごします。たいていの場合、私たちは部屋着で、足元はストッキング、時には片方だけの姿でこのコーヒーハウスに現われます。やって来たときの挨拶はあくびと背伸び⁶⁾なのです。そして、それ以上の作法はなく、リクライニング・テーブルに陣取ります。そこでの会話は、貴殿の目に留まらないものと思いますので、ここではお伝えしないことにします。断言できますが、小生はこの時間の浪費を心から悔やんでいます。そこで、現在では、(可能なら、2倍の努力を払って)失われた時間を取り戻す決意を固めています。スラック氏の主張に覚醒されたのです⁷⁾。彼の無分別な愚行はまさに小生が長い間とらわれていた愚行と同じことなのです。小生の告白に付随する後悔の念と決意の固さを示すために、小生は1年間ドアに鍵をかけることにしました。そして、貴殿から小生の仲間には小生は在宅していないということを知らせて頂きたいと思っています。何卒よろしくお願い致します。

敬具

エヌ・ビー

6) この箇所の「背伸び」stretch は、OEDが「退屈とけだるさを示す行為」と定義した最初の用例。

7) スラック氏に関しては、第316号参照。